

めあて

和歌のふるさとでもある宇都宮で、百人一首かるたを体験することにより、興味・関心を深め小倉百人一首に親しもうとする心情を育てる。

対象：クラス単位・学年単位

対象

小学校全学年

中1

中2

# 百人一首



授業の流れ（基本プラン）  
1～2時限（通常の授業時間）

あいさつ（講師紹介）

講 話

実 演

体 験

質 問

- ◆講 話◆ 小倉百人一首と宇都宮の関係について  
《歴史的背景などの話をし、宇都宮市にとって身近なものであることに気づいてもらう》
- ◆実 演◆ 勘とスピード、記憶に反射神経の勝負！実際に1対1の個人競技を見る  
《実際どのように札を取って行くのかを見せ、興味を持たせる》
- ◆体 験◆ 競技かるたの持ち札は各25枚ずつですが、体験では5枚から始めて、少しずつ札を増やして練習します  
《練習をして市民大会に挑戦しよう！》
- ◆質 問◆ 体験したことでの疑問、知りたいこと等を質問してみましょう  
《かるたの裏ワザもこっそり教えてもらいましょう。》



## 講 話



## 実 演



## 体 験



百人一首キャラクター  
みやびい



### ☆実施校からの声☆

・31音に込められた思いや情景を想像し、伝統的な言語文化に親しませるために、家庭学習の一つとして、百人一首の音読に取り組んできた。本教室を通し「百人一首かるた」を身近な遊びとして取り組めた。読み手による和歌の響きを体感し、日本文化や礼儀作法を知り、五感を使った集中力が身に付き、楽しむことができた。

百人一首は宇都宮市にとってもゆかりがあります。

昔、宇都宮に和歌の好きなお殿様がいました。  
宇都宮頼綱 宇都宮五代城主です。

鎌倉時代の宇都宮城主は大変な力があり、関東有数とうたわれていました。しかし、幕府から謀反の疑いをかけられ、お城と宇都宮の人々を守るため、やむをえず、出家し、京都に住むことになりました。

頼綱は、法名を蓮生入道と名のり、当代随一の歌人藤原定家と親しくなり、やがて、蓮生の娘と定家の息子為家は結婚し、両家は親戚になりました。当時、屋敷の襖に和歌をしたためた色紙を貼ることが流行っていました。そこで、蓮生は定家をお願いすることにし、昔からの歌百首を選び、色紙にまとめました。この「小倉山荘色紙和歌」こそ、のちの「小倉百人一首」と呼ばれるものです。

江戸時代になると、百人一首は、絵や芸能、工芸品の題材として好んで使われ、また、文字や日本人の心を学ぶ文学として広く庶民に愛されるようになりました。